シンポジウム

〈生表象〉の近代

―自伝・フィクション・学知―

２月１日（土）午後１時ー午後６時 25 分

I. 近代における〈語る私〉の生成（１）――西洋
II. 近代における〈語る私〉の生成（２）――日本
III. リアリズムとその彼岸

２月２日（日）午前 10 時ー午後６時 20 分

IV.〈生表象〉と教育制度――日記、作文、手記
V.〈生表象〉と近代的学知の生成
VI.〈生表象〉の主体と帰属性
VII.〈生表象〉と視覚イメージ

一橋大学　東キャンパス　国際研究館４階　大教室
（JR 中央線「国立」下車）

連絡先　森本淳生 atsuo.morimoto@r.hit-u.ac.jp

２０１４年２月１日（土）

13:00〜14:40
序　生表象とは何か？（森本淳生）
I. 近代における〈語る私〉の生成（１）——西洋
戯れ言をまじめに読む——エラスムス『愚神礼讃』と古代模擬弁論の伝統（堀尾耕一）
自伝誕生をめぐる神話——ルソーの『告白』受容の一側面（桑瀬章二郎）
レチフ、ネルヴァルと過去の現前——伝記、演劇、刻印をめぐって（辻川慶子）

15:00〜16:20
II. 近代における〈語る私〉の生成（２）——日本
近世期日本における自叙伝の位相——本居宣長と上田秋成を例として（田中康二）
歌舞伎役者五代目市川団十郎の「語る私」（廣瀬千紗子）
討論（I, II）

16:40〜18:25
III. リアリズムとその彼岸
鏡とアイロニー——スタンダールにおける生表象（片岡大右）
『わが秘密の生涯』（*My Secret Life*）を読む（大浦康介）
「追憶の計画」——谷崎潤一郎とジョルジュ・ペレックの〈自己〉構築における記憶とフィクション（エステル・フィゴン）
討論（III）

２月２日（日）

10:00〜12:35
IV.〈生表象〉と教育制度——日記、作文、手記
書かされる「私」——作文・日記、そして自伝（安田敏朗）
「花咲く乙女たち」の作文教育（中野知律）
証言は文学になにを残したか？——第一次世界大戦戦争文学をめぐって（久保昭博）
V.〈生表象〉と近代的学知の生成
オートフィクションとしての理論——フロイトのケース（立木康介）
ライフヒストリー・レポートの無謀と野望——柳田民俗学を「追体験」する（菊地暁）
討論（IV, V）

14:00〜16:10
VI.〈生表象〉の主体と帰属性
「戦争詩」から「自伝／オートフィクション」へ——「生表象」の帰属と文学性の問題について（吉澤英樹）
植民地と生表象、彼らが〈私〉を語る時、同時に〈我々〉を語り得るのか——エメ・セゼールとフランツ・ファノンの場合（尾崎文太）
女の自己表象（飯田祐子）
「文学」の拒絶、あるいは不可視のテクスト（坂井洋史）
討論（VI）

16:30〜18:20
VII.〈生表象〉と視覚イメージ
オートフィクションと写真——ジョナサン・リテル『慈しみの女神たち』を出発点に（塚本昌則）
北京の日曜日——クリス・マルケルからミシェル・レリスに（千葉文夫）
討論（VII）
総括